

競争力のある台畑園芸産地の育成－コギク－

県南農林事務所 稲敷地域農業改良普及センター

J A 竜ヶ崎市花き園芸部会は、県内第 3 位の出荷量・販売額を誇る産地で、平成 22 年には銘柄産地指定を受けました。また、生産者数、作付面積は年々増加しており、本県コギク生産の今後を担う重要な産地となっています。コギク生産においては、盆・彼岸などの需要期に高品質なコギクを安定的に出荷することが重要となるため、稲敷地域農業改良普及センターでは電照栽培技術の確立や普及、優良品種選定、健苗育成、病害虫防除対策を支援しています。

露地電照栽培技術の確立・普及

部会では、開花期調節のための露地電照栽培に取り組んで 6 年目となります。電照栽培導入生産者を対象に、電照設備設置指導や花芽分化検鏡と検鏡結果に基づく電照消灯時期の指導を行い、電照栽培技術の安定化を図りました。こうした取り組みにより、コギク需要のピークとなる 8、9 月の需要期出荷率は 80% 以上を維持しています。



露地電照栽培圃場



部会員による優良品種の検討の様子

優良品種の選定・導入

コギク出荷においては、赤・白・黄色のバランス、濃い葉色、扱いやすい草姿（頂点咲き）等が求められています。また、組織力を生かした出荷に向けて、品種の絞り込みも必要となります。このため、部会では試作圃場を設け、新品種の比較調査を行っています。優良品種の導入も積極的に進めており、県の育成品種の作付面積も増加しています。

健苗育成と病害虫防除対策の指導

コギクの重要な害虫であるオオタバコガの防除に向け、フェロモントラップを設置し、発生消長に基づいた防除指導を行っています。また、苗からの持ち込みによる病害虫の発生防止と、健苗育成のため、育苗方法の改善提案及び夏季の親株床還元型太陽熱土壌消毒に取り組ましました。これらにより病害虫は減少し、生育の大幅な改善がみられました。



生産者に配付した育苗方法改善提案資料